

論文内容の要旨

報告番号		氏名	中井登紀子
<p>The unique luminal staining pattern of cytokeratin 5/6 in adenoid cystic carcinoma of the breast may aid in differentiating it from its mimickers</p> <p>(乳腺腺様嚢胞癌において サイトケラチン5/6の腺腔形成細胞の染色性は類似病変との鑑別に有用である)</p>			

論文内容の要旨

乳腺腺様嚢胞癌は稀ではあるが、臨床・病理学的に極めて特徴的な腫瘍である。トリプルネガティブ乳癌であるにも関わらず予後良好であり、luminal cells に裏打ちされる「真腔」と、myoepithelial/basaloid cells に裏打ちされる「偽腔」の2種類の腔の形成を特徴とする。病理診断において、その2つの腔を同定することが重要となるが、特に針生検材料などでは、管状・篩状構造をとり類似した組織像を呈する他の腫瘍との鑑別が難しいことが多い。

本研究では、腺様嚢胞癌の診断において、真腔と偽腔の同定に有用な免疫染色抗体パネルを特定することを目的として、免疫組織学的な検討を行った。

検討には、乳腺腺様嚢胞癌14例の他、比較対照として背景の正常乳腺組織と、collagenous spherulosis 4例を用いた。epithelial/luminal cells marker および myoepithelial/basal cells marker として一般的に利用されている抗体から11種類の抗(CK7,EMA,CD117,p63,calponin,CD10,S100,CK5/6,CK14,vimentin,typeIVcollagen)を選択して、免疫染色を施行した。各々の抗体について、腺様嚢胞癌では胞巢の真腔周囲と偽腔周囲、正常乳腺では腺上皮と筋上皮、collagenous spherulosis では真腔と間質周囲領域について、各領域における染色面積(0,1+:<10%未満,2+:10-49%,3+:50-69%:4+≥70%)を判定し、その領域を構成する細胞に対する各抗体の感度・特異度を検討した。その結果、腺様嚢胞癌における luminal cells marker としては、CK7, EMA が、abluminal cells としては type IV collagen, p63, vimentin が、最も感度・特異度の高い抗体として示された。また、従来 myoepithelial/basal cells marker の一つとされている CK5/6 は、腺様嚢胞癌では abluminal cells よりむしろ luminal cells に発現する傾向がみられ、この CK5/6 発現の逆転現象は、collagenous spherulosis など組織学的に類似した像を呈する病変との鑑別に有用と考えられた。